

## 日本発祥パワーストーンで世界が見える

(有) ジャネットインターナショナル代表 ジャッキー鶴丸



鉱山の閉鎖などで採掘量が減り、希少価値の高いパワーストーンも増えている

古来、さまざまな意味や効能が伝わり、儀式などに用いられたという神秘的な石、パワーストーン。石をパワーストーンと呼ぶのは日本だけで、海外ではジューストーンあるいはクリスタルと呼ばれている。日本語表記は半貴石。貴石（宝石）の代用品として流通していたが、1980年代中頃にブレスレットブームが始まり、芸能人やスポーツ選手など著名人が身につけるようになったことで、その人気は不動のものとなった。この「パワーストーンブレスレット」、実は日本発祥だということをご存知だろうか。

1980年代初め、京都で石をゴムひもで組んだ「数珠レット」という観光みやげのブレスレットを売り出した

ところ、女子高生を中心に大流行。そこで、天然石業界が世界に伝わる石の神話や伝承を“石の由来や効能”として紹介し、「夢と願いが叶うパワーストーンブレスレット」として販売した。すると「本当に願いが叶う！」と話題となり、ブームが日本全国に広がり、さらに、アメリカ、ヨーロッパ、中国へと拡大したという。筆者は、パワーストーンブレスレットを作ったのは風水を重んじる香港・中国の人たちだとずっと思ってきたが、意外にも日本人だったのだ。ジュエリーマーケットにならぶパワーストーンのブレスレットも、そのルーツは京都のみやげ物だった。

この日本発祥の秘話を教えてくれたのは、「香港インターナショナル・ジュエリー・ショー」にも出展経験のある株式会社グランド代表の西田智清氏。「ジュエリー・ショーでは、最近中国人バイヤーが激増。トップグレードの宝石を粘り強く交渉してまとめて買っていきますね。今や中国・北京の流行で天然石の相場が上がり、在庫も無くなる時代です。北京のトレンドはラピスラズリ、ターコイス、アンバー、赤珊瑚あたり。中国ではビジネスに成功した人が身につけたパワーストーンブレスレットは、すぐに反響呼び、価格が上昇します。『香港インターナショナル・ジュエリー・ショー』は、天然石市場から世界の景気わかるショーなんです。」と西田氏は言う。石ひとつで世界が見える、やはりパワーストーンなのだと思う。

ジャッキー鶴丸 / (有) ジャネットインターナショナル代表  
取材撮影協力 / 株式会社グランド

2014年8月発行（禁無断転載）

### 目次

日本発祥パワーストーンで世界が見える	1
カイトック・クルーズ・ターミナルに想う	2
香港財界人との交流(6)	3
香港政府観光局、2014年は「食」に焦点	4
あの時 この曲 in 香港 坂本九「上を向いて歩こう」	6
連合会・各協会便り	
連合会：第11期 チャイニーズ・マネジメント&マーケティング・スクール	7
東京：第21回横浜ドラゴンボートレース2014に参加／菅沼義夫氏に瑞宝小綬章	7
関西：文化庁セミナー開催／昼食セミナー開催	8

中 京：夏季会員親睦会二題	9
九州：設立5周年記念九州日本香港協会 平成26年度通常総会・特別講演の開催	10
北海道：香港在住のカップルが小樽でリーガルウェディング	11
宮 城：平成26年度通常総会&記念セミナー開催／ 平成25年度第3回香港文化教室を開催	12
沖 縄：沖縄の企業の香港でのビジネス展開	13
広 島：平成26年度 通常総会・講演会・交流会	14
香港貿易発展局 香港トレードフェアカレンダー	14
新 潟：農家のためにとスタートしたコメの輸出	15
CONRAD TOKYOからのご案内	16

## カイトック・クルーズ・ターミナルに想う

日本香港協会全国連合会会長 木全 千裕

私はこの度、初代財前宏様、二代国場幸一様の後をうけて三代目全国連合会会長に就任致しました。微力ではございますが連合会の発展のために尽力する覚悟ですので会員の皆様方には何卒ご支援ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い致します。

私は昨年香港フォーラム二日目（12月4日）夕刻、オプションプログラムのカイトック・クルーズ・ターミナル訪問ツアーに参加した。一部に境界を越える所があるのだろうかパスポートを持参せよとの条件付きであった。グランドハイアットホテル近くから20人程が小型バスで現地に向かった。半年前の6月に寄港第一号船を受け入れたそうであるが、建設関係者らしき人々以外は誰もおらず、がらんとしたコンクリートの建物であった。全長が850メートルもあり、22万トン級の世界最大客船が接岸できるバースが二つもある大規模なものだ。建物は4階建ての大きなビルで、空港と同じように、ロビーや受付デスク、出国手続き・入国手続き・手荷物取出しなどを行う施設があり、そして客船が接岸して旅客が出入りする設備などを、丁寧に案内してくれるガイド役の説明を聞きながら見て回ったが、とにかく広いので歩き疲れるほどだった。最後に屋上に出ると、目の前に美しい庭園とモニュメント風な建物がのびやかに開けていて大変印象的であり、ビクトリア・ハーバーを望む景色も素晴らしかった。案内の途中で親しくなった中国人の女性たちと会話をしながらあちこち散策した（因みにこのターミナルの建設は日本の五洋建設が行ったとのこと）。

皆様ご高承の如く、この場所には、1998年にランタオ島にチェックラップコック空港が開かれるまで、啓徳（カイトック）空港があった。機体を旋回させながらビル群すれすれの高さを飛行して着陸する香港アプローチは、世界一着陸が難しく、危険なことでも有名であった。私が初めて啓徳空港に降りたのは、1975年中近東に赴任する為のパンナム世界一周西回り便のトランジットであった。その後もしばしば啓徳空港におりたが空港免税店に立ち寄るのみで、実際に香港の街に入ったのは1980年代に入ってからである。私の勤務先にとって、香港電灯

や中華電力は日本の電力会社と並ぶほどの上得意であり、香港島周りの海底ケーブル敷設や地中・架空送電線建設の仕事をしていた。ラマ島や大亜湾の発電所は送電の起点となる所で度々訪れた。

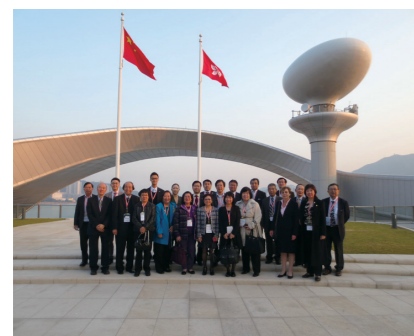
送電線路調査の為、車や船でアチコチ走り回ったが、当時深圳はまだ経済特区に指定さればかりで三洋電機の工場のほかはめだつものは何もなかった。コーズウェイには日本の百貨店がたち並び、街のネオンサインも日系の電機メーカーの名前が目立っていた。

その当時の香港や深圳の様子を思い浮かべると今では街の建物も、港湾施設も旅行者の顔ぶれも信じられない程大きく変化している。その変容の度合い、発展の速度にはまさに瞠目すべきものがある。それをもたらした原動力は中国の急速な発展であり更に言えば香港人特有なエネルギーな活力であろう。この急ピッチな発展に、世界一着陸が難しく、指折りの危険をはらむ啓徳空港が耐えられる筈はなく、新空港建設に至るのは自然の成行きであろう。しかしその啓徳空港跡地の活用方法として、更なる観光客を呼び込もうとアジア最大のクルーズ拠点とするという構想力、その為に82億香港ドルを投資するという決断力、そして啓徳空港廃港後15年でクルーズターミナル開港を実現するというスピード力は、成田や羽田の拡張で手間取る日本人にはまねのできない、香港人ならではのものである。彼らの試算によればこの投資は5年程度で回収でき、1万人近い新規雇用が期待できるという抜け目のなさもある。

香港は中国伝統の行動規範と英国統治の原理がしなやかに組み合い、環境の変化に巧みに対応しながら発展してきたがそれは今後とも続くことであろう。香港は金融や物流或いは観光やカルチャーなどこれまで培ってきた経験・能力を基にしてPRD（珠江デルタ地域）全体を、労働集約産業から付加価値創造産業の方向へ構造転換させるという新たな役割を見出している。そのシンボルが香港・珠海・マカオをつなぐ港珠澳大橋の建設である。非常に気宇壮大な計画で、2016年の開通を目指して建設工事が進められているが、これが実現すれば香港から珠江デルタ西部の諸都市への所要時間は3時間以内となる。旅客にとっても貨物輸送にとっても画期的なことであり、物流・観光・貿易・金融など各分野で、機を見るに敏で、変化に柔軟に対応する香港人にとって多くの新たなビジネスチャンスがうまれる。香港が思いもかけない姿に変貌してゆくことになるであろう。



密集する九龍のビルの谷間に降下する旅客機  
(写真：J.Koyanagi)



Kai Tak Cruise Terminal

## 香港財界人との交流(6) ロナルド・チャオさん

日本香港協会会員 財前 宏

昨年11月22日の香港紙South China Morning Postにチャオさんの記事が出た。日本で学んだビジネスマンが中国の大学に日中学生交流のための寄宿舎の寄付基金設立というものだ。私が日本に戻ってからチャオさんとの直接の交流はなかったが彼と彼の一族が経営するNovel Enterpriseの驚異的な発展ぶりは色々な機会に聞いていた。私自身繊維取引とは無関係な世界にいたので、チャオさんから繊維業界について詳しい話を聞けなかったのは残念だが、チャオさんは広く香港の日本人とも付き合いだったので、私も商工会議所の会など色々な機会にチャオさんと話ができた。読者の中にもチャオさんと昵懇な方は多いと思う。

彼は1957年に18歳で日本に留学した。上海生まれで、革命によって多くの上海人が香港に逃れたように、彼も家族と共に香港に移住した。

上述の香港紙では当時香港の学生は英国か米国に留学するのが普通であったが、彼の父が繊維で中国本土と取引をしており冷戦下でもあり英・米では留学を受け入れてくれないと考え、日本留学に決めたとしている。私の想像では彼の父K.P.チャオさんはファミリービジネスであったNovelを世界中の有名ブランドへの製品供給企業に拡大し（私の知っているブランドだけでも米国ではCalvin Klein、GAP、Poloなど、英国ではMarks & Spencerなど、日本でもユニクロ、イトーヨーカ堂、ジャスコなどに納入）、更に繊維業のみならずドラゴン航空の創設など幅広く企業活動を行った人物だが、かなり前から中国の大学に寄付を行うなど、本人は内戦で学業の道を閉ざされたが、息子には何とか学問をさせたいと考えていたのではないと思う。創業者のK.P.チャオさん、そのご子息、およびお孫さんまで皆さんが優れた経営者で極めて優秀な頭脳を持った人々でNovelを大企業に育て上げた訳だ（確かチャオさんの姉妹の方だと記憶しているが、マカオの立法会議長を務められた優秀な方もいてマカオとの取引では色々お世話になったこともある）。チャオさんも日本留学時代は余程頑張ったに違いない。日本語学校に通い東大に入っている。東大での寄宿舎生活が若い学生同士の交流を深めると考え、前掲の寄宿舎の基金設立に繋がったものと思う。東大で機械工学を専攻し、更にイリノイ大学で修士課程に進んだ。色々な大学に寄付をしているようで、早稲田で聞いた話では留学生支援でユニクロの柳井会長と早稲田にお金を寄付して中野に国際交流会館を建てられたとのこと。10年前の話だが某新聞社の新進気鋭の経営者として、柳井氏とNovelのCEOをやっていたSilas（チャオさんとの血縁関

係は知らないが、若い極めて優秀な経営者であった）がほかの何社かの経営者と共に選ばれた。私はそのあとの懇親会に招かれ3人で話したことがある。柳井氏もNovel社やSilasから色々学び、中国での安い賃金を利用して中国本土で繊維産業を立ち上げたと聞いた。

さて、話を私の居た1980年代後半の香港に戻す。当時中国内に行くにしても中国の飛行機しかなく定刻発着は望むべくもなく（今でも同じだが）、政府の高官が乗ると一般人は搭乗できなくなるなど何かと不便であった。チャオさん一族が投資したドラゴン航空の発足は日本人社会でも大歓迎であった。チャオさんから誘われてドラゴン航空の香港・鹿児島路線開設便に乗ったことがある。一行はドラゴン航空関係者と出資者の関係者及びスワイアのGledhill夫妻などで実に愉快的鹿児島見物であった。私ども夫婦も東京以外の日本は全く経験がなく香港関係者と同様に珍しい鹿児島を楽しんだ（実は鹿児島以外にもその後、Gledhill夫妻と札幌周遊をしたことがある）。霧島に泊まったり、知覧の武家屋敷を見たり、指宿の砂蒸し風呂など皆で楽しんだが、驚いたことにはチャオさんは本屋を見るとそこに立ち寄り日本の本を次々と買って行くことであった。本好きというより香港で日本の本に飢えていて、久しぶりに日本語の本に出会って本当に嬉しそうな様子であった。

ある時、日本人商工会議所と日本人クラブがサザビーズの骨董品入札会で慈善事業として落札品を慈善事業に寄付することとなった。たいした金額ではないが私と東京銀行の橋本さん等で参加したが誰もこの種の入札はやったこともなく、どんだんスピーディに進行する中で茫然としていたら偶然チャオさんと会った。実はかくかくしかじかと希望の品を話したところ、主催者側とうまく話をしてくれたのか落札となり当初の目的を達したことがある。チャオさんの趣味は清代のアヘン用のパイプの蒐集と聞いたが、どんなパイプなのかは記憶にない。

香港でもチャオさんのお宅に招かれたことがある。記憶が正しければ九龍塘（Kowloon Tong）であったと思うが、香港の金持ちの家というより日本の家のような雰囲気であったように思う。

Novel Groupについては別途書きたいと思っているが、1990年代初めに上海に巨大なNovelビルを建て、不動産・土地開発などに本格的に進出していた。一方繊維関係ではその後中国での生産コスト上昇、ワーカー不足などを見通してベトナム、バングラディッシュと生産拠点をシフトしてゆくなどまさに我々も学ぶべき香港企業の先端をゆく企業だ。

## 香港政府観光局、2014年は「食」に焦点

香港政府観光局日本局長 堀 和典

### 渡航者数の順調な回復

皆様、はじめまして。昨年10月に香港政府観光局日本局長に着任いたしました、堀和典と申します。日本香港協会の皆さまには、平素より私どもの香港への観光誘致に様々なご協力を頂き心から感謝申し上げます。



堀 和典日本局長

香港へは以前より出張などで渡航する機会はありましたが、改めて観光マーケティングの視点からみると、親日的な香港人、豊富な観光資源、そして増え続ける日本-香港間の航空座席量を知り、まだまだ渡航者数を伸ばしている旅行先であると確信しました。

2013年の日本人渡航者数は、領土問題の影響で約106万人と前年比16%減となりましたが、昨年10月以降は順調な回復をしております。2月には、キャセイパシフィック航空が関西空港発着便を増便、3月末からは香港航空が鹿児島線を週2便で就航、さらに、4月から香港エクスプレスが福岡線を週7便で就航するなど、消費者の利便性がさらに高まっています。2014年は、120万人の渡航者数を目標として、消費者の需要喚起と旅行業界とともに集客に向けた活動に力を入れていきます。

### 具体的な体験を提案

昨年11月初旬には、東京の六本木ヒルズで大規模な消費者向けイベント「香港Live at 六本木ヒルズ」を開催しました。本イベントでは、香港の人気レストラン添好運點心専門店と鴻星海鮮酒家よりシェフを招き試食会や、香港の魅力を伝えるステージイベント等を開催し、悪天候にも関わらず1万3千人もの来場がありました。また、このイベントを機に昨年秋以降は、多くの媒体が香港の観光魅力を取り上げており、香港への興味喚起が一層高まっていると思います。

現在香港は観光地としての認知も高くイメージも良いのですが、香港に行ったことがない旅行者には今すぐに行こうと思う欲求が低く、ここ数年減少傾向にあ



「香港Live at 六本木ヒルズ」セレモニーには2014年香港観光親善大使EXILEも参加

ります。そこでもう一度香港の優位性を強調し直し、香港に行ったら必ずやるべき体験を具体的に提案していきたいと考えています。また「消費者は消費者を信じる」この時代には質の高い口コミをネット上で増やすことも行っていきます。

### 「食」を通じた香港の深み

本年度のキャンペーンは、香港の優位性の中から食を選び、「香港食道」(ほんこんしょくどう)と題し、香港の「食」の魅力に焦点を絞りプロモーションを行っていきます。「香港食道」というコンセプトには、さまざまな意味が込められています。一つは香港の街全体に、大きな「食堂」というイメージを持たせること、また、ここでは敢えて、「道」という文字を使うことにより、香港には「食」からつながる様々な教えや健康法などがあることを表します。そこで香港の食の魅力や歴史や文化背景ともに紹介したいと思います。

香港には、ミシュランの3つ星レストランや夜景の美しいレストランから、ローカルの人々の人気を集めるカジュアルなお店まで、幅広いレンジの食が体験できます。残念ながら、そういった具体的なレストラン



### MY TIME FOR HONG KONG

## 香港 食道

本年度キャンペーン「香港食道」ロゴ

やメニューの情報がまだ日本には十分伝えられていません。そこで日本人にお勧めの店の情報をテレビ、雑誌、インターネットを通じ発信し、旅行の動機付けをしていきたいと思えます。美味しい店でいい体験をして満足した旅行者は、帰国後、その体験を身近な人に共有し発信してくれます。協会の皆様は、さまざまないい情報を持っていると思えますので、是非日本人にお勧めの香港食情報を発信いただければ幸いです。

### 「EXILE」の起用

また、2014年は人気グループ「EXILE」の皆さんに香港観光親善大使を務めて頂いております。幅広いファン層を持ち、元気でエネルギッシュなEXILEのイメージと、香港の活気あふれる魅力が合致することから、昨年11月に任命をさせていただきました。早速、4月にはメンバーの中からTAKAHIROさん、AKIRAさん、MAKIDAIさんの3名に香港に渡航していただきました。その結果、日本テレビの朝の情報番組「ZIP!」やフジテレビの「バイキング」などのテレビ番組や女性誌の香港特集で幅広く、食、観光、エンターテインメントの魅力をPRして頂きました。EXILEのメンバーの皆さんには、引き続き香港の様々な魅力を発信して頂きたいと考えております。



4月には香港観光親善大使のEXILEのメンバーが来港

### イベント満載

さらに、香港では今年も様々なイベントを開催し、日本の皆様をお待ちしております。夏のセール時期には「香港 Summer Fun」というプロモーションを開催し、ショッピングやレストランはもちろんのこと、様々な観光施設でも夏の特別イベントを開催します。9月4日から9月10日には「中秋節」のお祭りがおこなわれます。今年も、大規模なランタンカーニバルを行う予定です。また、11月の食のプロモーション「香港ワイン&ダイニング・フェスティバル」に先駆けて、10月30日~11月2日までは恒例のキックオフイベントが開催されます。このフェスティバルは、美しい香港のスカイラインをバックに屋外で各国の上質なワインや香港の食を楽しむイベントとして、地元の人や観光客に高い評価を得ているイベントです。



中秋節のお祭り

そのほか、11月から2月までは、香港の自然を楽しむ「グレートアウトドア香港」、そして11月下旬から来年1月初旬までは、ロマンチックなイルミネーションを楽しむ香港ウィンター・フェスタを開催いたします。また、12月31日には、今年も大規模なカウントダウンイベントを行う予定です。

日本と香港のさらなる発展には観光がより重要な役割を担うと考えております。引き続き日本香港協会の皆様のご支援とご協力をお願いしたいと思います。また、皆様をはじめご家族やご友人の香港への渡航を心よりお待ちしております。



香港ワイン&ダイニング・フェスティバル10月30日-11月2日開催

## あの時 この曲 in 香港 坂本九「上を向いて歩こう」

日本香港協会会員 入江 央

1970年5月、当時私はイタリア・ミラノの駐在員だった。たまたま冷凍魚の荷揚げで、ヴェニスに出張していたが、好都合に土曜日の午前中に荷役完了。そこで車をとばして、前から行きたいと思っていたユーゴスラヴィア（現クロアチア）にむかった。

国境の町トリエステを過ぎ、ユーゴに入るころから、突然の雨。引き返そうかと思ったが、逃げ水を追いかけられているうちに雨がやみ、夕方目的地、ロヴィンニョで水泳を楽しむことができた。こんな遠いところ日本人なんか、来ない。その3年ぐらいたった後に、大橋巨泉のTV番組11PMが、この地で撮影され、日本人第一号として叫んでいたのをみて、こちらが先だぞと、言いたくなったのを思い出す。

アドリア海に西陽が沈む頃、駐車場のおじさんに教えてもらい、予約なしに一軒の高級レストランに入ったところ、テーブルに着くやいなや、ピアニストが目ざとく私を見つけて、「上を向いて歩こう」（なぜかスキヤキソングと呼ばれていたもの）を弾き始めたのには驚いた。平均的な日本人体格を見破ったのか、ともかくにも、強い望郷の念に駆られたのは事実だ。

その後スペインに長くいたのだが1984年12月19日に支店長として香港に着任した。その日北京では、サッチャー英首相と、趙紫陽中国首相との間で、香港問題に関する、中英合意文書が調印された。これより前に、鄧小平とサッチャーとの間で基本路線（一国二制度、50年不変など）は決定されていたのだが、まさに画期的な日に現地にいあわせた幸せを、私はかみしめた。中国への返還は、1997年7月1日となる。

香港人にとって、二つの制度などうまく行くだろうか、心配になるのは当然で、金持ちはカナダ他に移民を準備、何もない人はそのまま、中間層が一番悩んだ。結果的には総論うまく進んだのだが。

さて85年春節が過ぎ、私はいろんなプロジェクトを開始したのだが、この頃の中国は貧しく、一方、1ドルは240円前後（プラザ合意の前）、本当なら日本よりの輸出が大変有利。当時私は食品機械のプロジェクトをかかえており、なんとか中国側に、輸入ライセンスを取得

し、L/C（輸出信用状）を発行してもらおうと、邦銀の力を借りるべく努めていた。自宅のHappy Valleyの上の、Stubbs Road（司徒拔道）から、中環（Central）に通っていたのだが、85年夏休みには家族が香港に来ていた。

そして、8月12日朝、なぜか前日からのTVを観ずに、置地広場（Landmark）の日系銀行の支店に直行したところ、支店長がいきなり、満席の日航ジャンボ機が墜落したと、切り出したのには仰天した。そのフライトには、同業の関西系の商社の香港駐在員が乗っておられた。同氏は休暇で帰省中、実家の大阪に一刻でも早く帰ろうと、予約済みのフライトの便まえにウェイティングをかけたところ、誠に不運にもキャンセルがでて、このフライトに乗れたとか。逆に乗り損ねた人はなんと好運な人だろうか。私は、亡くなった方とは面識がなかったこともあって、「人間万事塞翁が馬」と運命の皮肉を実感していたところ、件の支店長が「君！歌手の坂本九を知っているか」と聞く。私が「知っているが、それがどうした」と問い返すと、彼も乗っていたと聞いて、むしろこっちの方がびっくりした。

群馬県御巢鷹山に墜落したのは、東京発大阪行き日航123便。524人の人が乗っていた。上述のスペイン時代、カナリア群島テネリフェ空港でもっと犠牲者がでた事故が起きたが、こちらは滑走路上で2機のジャンボ機がぶつかったので、1機としては、日航機の事故が世界最大であった（今でもそうかもしれないが）。今年も現地で慰霊祭のような式典がもよおされようが、安全がすべての前提に変わりはない。四半世紀すぎたが、事件が風化しないようにしてもらいたい。

ユーゴからこの日までの15年間、坂本九さんのファンだったといえば、作り話に聞こえようが、あのニキビだらけの人懐っこい顔は忘れられない。私の場合とくに友人、家族が巻き込まれたわけではないが、「上を向いて歩こう」は、一生忘れられない香港の思い出の曲となっている。安易にカラオケで口になどせず、大切に心にしておくことにする。



## 第11期 チャイニーズ・マネジメント&マーケティング・スクール

日本香港協会 全国連合会

日本香港協会全国連合会が主催する第11期チャイニーズ・マネジメント&マーケティング・スクール（CMMS）の開講式が4月3日に行われました。今期CMMSは、前期までの東京、大阪会場に加えて、新たに九州会場での開講が決まり、3会場をテレビ会議システムで繋いでの同時中継の授業としてスタートしました。

CMMSは2003年の開校以来、日本香港協会が主催し、香港大学商学院華人経営研究センター、香港貿易発展局の2つの組織が運営に協力しているスクールです。また、対中国・アジア依存に備え、華人資本組織とその経営行動様式を学ぶことができる独自のカリキュラムによるスクールです。香港大学商学院華人経営研究センターの全面バックアップのもと、2003年に関西に開講した本スクールの最大の特徴は、カリキュラムとチャイニーズの捉え方にあります。カリキュラムは2つの分野、理論編、実践編からなり、それぞれの素養を、思考訓練を通じて一人の人間に定着させるという画期的内容になっています。理論編では華人社会の基礎概念を歴史、思想、社会学等から抽出して学習し、華人経営行動の分析力をつけます。実践編では業務分野別に華人経営様式を検討、実際に分析してみます。

4月3日に東京、大阪、福岡にて同時開催された

CMMS 開講式には、九州経済調査協会理事長森本廣氏、二松學舎大学文学部教授牧角悦子氏、九州日本香港協会会長石原進氏、日本香港協会全国連合会会長木全千裕氏、九州香港協会副会長佐々木克氏、日本香港協会全国連合会事務局長古田茂美氏、サイオーベックス(株)特別顧問藤澤慶彦氏が出席され、それぞれ挨拶を述べました。また、各会場の様子がモニターに映し出される中、受講生48名が各会場にて、一人ずつ各々の受講の意気込みを語りました。

なお、今期CMMSは4月開講、9月修了の約6か月間の授業になります。理論・実践編の20講義に加え、前期までの語学編として中国の歴史、文学、思想などを盛り込んだ授業が、名称を新たに文化・思想編にかえて同時にスタートし、二松學舎の4名の講師陣が10講座の授業を担当します。

私どもは主催者として、本スクールを通して、中国ビジネスの新たな切り口の発見に貢献できればと願っております。



## TOKYO

NPO法人日本香港協会



### 第21回横浜ドラゴンボートレース2014に参加

今年も横浜開港祭のメインイベント、今では初夏の横浜の風物詩となっている「横浜ドラゴンボートレース」が6月2日の横浜開港日をはさみ5月31日から6月8日までの週末の土日に、山下公園前の海上で開催されました。



その起源が紀元前三世紀の戦国時代の中国、楚の国に遡ると言われている龍舟競漕（ドラゴンボートレース）。1976年の香港国際龍舟祭りで競技化されて以来、今では世界38か国以上に広がっているそうですが、1994年に第13回横浜どんたく開港祭（現在の横浜開港祭）のマリンイベントとして香港よりドラゴンボート6艇を横浜に移送し、第1回目の横浜ドラゴンボートレースを開催してから、今年で第21回目の開催となり、氷川丸をバックに約200チームが260mの熱き戦いを繰り広げました。

日本香港協会からは、6月8日小雨のばらつく中、香港太平山會（Hong Kong Tai Ping Shan Club）チームが香港カップに出場しました。第6レース予選1回目は、息

の合ったパドル捌きと舵で激しく水しぶきを上げて力走し、なんと1位（1分44秒80）でゴール。また、2回目にも1分44秒61（2位）と健闘しました。

この大会は基本的に雨天決行。どんな条件でも真剣に戦い、真剣に楽しむのが、横浜ドラゴンボートの魅力だそうです。レースの舞台となった山下公園内には香港経済貿易代表部の他様々なブースが並び、ステージイベント、ダンス等お祭り満載で、梅雨の合間の楽しい交歓のひとつとなり、終了後中華街にて恒例の打ち上げを行いました。

### 菅沼義夫氏に瑞宝小綬章

菅沼義夫氏（元経済産業省）は今年春の叙勲で、瑞宝小綬章を受けられました。誠におめでとございます。

同氏は香港駐在より帰国後、1988年日本香港協会の創立及び2002年NPO法人登記等、長きに渡り当協会の事業活動に参加、功労者のお一人です（現総務担当副理事長）。

今後の益々のご健勝をお祈り申し上げます。



菅沼義夫氏



# KYUSHU

九州日本香港協会



九州日本香港協会 事務局

## 設立5周年記念 九州日本香港協会 平成26年度通常総会・特別講演の開催



議長挨拶 佐々木克氏



副会長挨拶 三輪浩氏



記念品贈呈

九州日本香港協会では7月11日（金）にグランドハイアット福岡にて平成26年度通常総会・パネルディスカッション・交流会を開催しました。総会では平成25年度事業報告・収支決算、平成26年度事業計画・収支予算、山九株式会社福岡支店支店長三輪浩氏の副会長新任などすべて全員一致にて承認されました。

総会後のパネルディスカッションでは「九州での新規事業～チャイニーズ・マネジメント&マーケティング・スクール（CMMS）の意義と狙い」と題して、パネラーとして九州経済調査協会理事長森本廣氏、西日本新聞社編集局総務傍示文昭氏、九州日本香港協会副会長佐々木克氏に登壇いただき、香港貿易発展局日本首席代表の古田茂美氏がモデレーターを務められました。

ディスカッションの中では、「九州日本香港協会は設立5年目の節目である今年の4月より、中国アジア市場へ九州企業が輸出拡大していく為の羅針盤となる対中事業人材育成教育『CMMS』を開講している。CMMSは香港大学のツェ先生が確立された華人経営研究所の学術的方法を採用して、西洋的MBA的学術知識の上に、アジア特有の多様な宗教や思想や哲学、つまり中国市場になれば協調主義としての儒教や、対峙競争主義としての中国兵法の考え方など、きわめて

土着的な行動文法を解明し明らかにしていく方法論を確立している。このような学校はかつて日本には存在せず、まさに香港大学ツェ教授と本協会の存在のお蔭でこのような知見に九州が巡り会えた」といった活発な内容の発言が行われました。また、古田茂美氏より佐々木副会長に設立5周年記念として記念品の贈呈が行われました。

交流会では並田名誉顧問の挨拶の後、香港・日本経済委員会委員長、新華集団会長、中国人民政治協商会議全国委員会委員ジョナサン・チョイ氏、鹿児島県副知事佐々木浩氏、福岡市副市長中園政直氏より来賓挨拶を頂いた後、参加した方々での活気ある交流が行われ盛会でした。

交流会の後、会場を九州経済調査協会のビズコリに移して「華人経営の倫理と精神」を題してジョナサン・チョイ氏の特別講演を開催しました。新華集団から、華人経営、中国市場まで、幅広い領域をご自身の率直な経験や考えをもとに分かりやすく話され、出席者にとってとても有意義な時間でした。

今後とも九州日本香港協会は設立5周年を祝賀して頂いた皆様への恩返しとして香港と九州の魅力をどんどんアピールして両地域の発展に貢献していきたいと思っております。



パネルディスカッション



ジョナサン・チョイ氏特別講演

# HOKKAIDO

北海道日本香港協会



北海道日本香港協会 事務局

## 香港在住のカップルが小樽でリーガル ウェディング

小樽は、かつて北海道内最大の商業都市として栄え、大手銀行や商社の支店が相次ぎ進出、海外との経済活動も活発に行われていました。アメリカの金融街になぞらえて、「北のウォール街」とも称された通りには、当時の繁栄の面影を残した石造りの倉庫や、レンガ造りの歴史的建造物などが数多く残り、ノスタルジックな街並みが美しい「運河と坂の街」は、今でも多くの人々を魅了しています。

また、お寿司やスイーツなどの美味しい「食」や、ガラス工芸の街としても名高く、山や海の豊かな自然と、港町の風情が一つになった小樽の街は、地元の人たちだけではなく、多くの観光客に親しまれる、北海道で人気の観光地の一つとなっています。

小樽の平成25年度の観光入込客数は約710万人、平成20年度以来5年ぶりに700万人を超えました。また、外国人宿泊客数については、円安傾向に加え、東南アジア5カ国に対するビザ発給要件の緩和などにより、対前年度比160.2%の7万2,860人となり、過去最高を記録しています。国・地域別で見ると、平成19年度から7年連続で香港が最も多く、平成25年度の宿泊客数は約1万9,000人と、外国人宿泊客の26%を占めています。

外国人の方々は、自分たちのこだわりを形にしたいという熱意が強く、美しい景色を背景にウェディングドレス姿で記念写真を撮る「フォトウェディング」を目的に訪れる外国人観光客も多く見られます。小樽の風情ある街並みは、外国人カップルにも人気が高く、特に小樽運河は「フォトウェディング」の人気スポットとなっています。

また、近年では香港や台湾のカップルの間で、日本でのハネムーンも兼ねた「リーガルウェディング」の人気が高まっています。海外で挙式するだけでなく、その国の法律に則って結婚の手続きをする「リーガルウェディング」は法的な効力を持ち、自国に戻った後、日本での受理証明書を提出すると、両国に婚姻記録が残ることになります。

今年の5月末、香港在住のカップルが小樽市役所に婚姻届を提出するセレモニーが行われました。ジュネイル・ライアン・エラさんとカーマン・レンさんのカップルは、友人のカメラマンが撮った小樽の写真を見て、海に面した美しい景色に、「ぜひ小樽で結婚式を挙げたい」と、ウェディングプロデュース会社を通じて、小樽市に「リーガルウェディング」の相談をしました。小樽市では初めての取り組みでしたが、事前の必要書類の手続きなど、戸籍住民課や観光振興室の職員の方々が積極的に協力し、無事にセレモニーを挙げることができました。

市内のホテルで挙式を終えた二人は、タクシーとウ



小樽市の中松市長に婚姻届を提出する香港在住のカップル

ェディングドレス姿で小樽市役所前での受理式に臨みました。中松義治市長が婚姻届を受理し、市役所の職員や市議会議員の方々が、フラワーシャワーやクラッカーを鳴らして二人の門出を祝福しました。

中松市長は、「小樽を第二の故郷とさせていただき、これから何度も訪れていただければ嬉しい。おめでとうございます」と祝辞を述べられ、新郎新婦の二人も「親切にさせていただき、感謝しています。思い出に残る式となりました。ぜひ、また小樽に来たい」と、感激の様子でした。北京語で「あなたを一生愛します」（愛你一輩子）という意味を持つ「2014年5月20日」に挙式を希望していた二人にとって、憧れの小樽で籍を入れることができ、忘れられない記念の日となったようです。

これから先も、北海道での「リーガルウェディング」のニーズは増えて行くことと思われませんが、小樽市では外国人カップルに喜んでもらえるよう、これからも今回得たノウハウを活かして「リーガルウェディング」を推進していく考えとのことです。

小樽には、二度、三度と訪れたい魅力が数多くあります。建設当時の風情を今も残した「北運河」エリアや、「小樽市鯉御殿」、「小樽貴賓館（旧青山別邸）」など、にしん漁で繁栄した当時を感じられる祝津地区まで足を伸ばすのもよいでしょう。また、冬の風物詩となったイベント「小樽雪あかりの路」での、温かなキャンドルの灯に彩られた美しい街並み、新鮮な旬の海産物など、四季折々それぞれに異なる魅力を楽しむことができます。

日本香港協会の会員皆さまも、小樽の新たな魅力を探しに、ぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。



人気の観光スポット「小樽運河」

# MIYAGI

宮城日本香港協会



宮城日本香港協会 事務局 武田 功

## 平成26年度通常総会&記念セミナー開催

5月20日(火)17:30からパレス平安5階「エトワールホール」において、2014年度通常総会&記念セミナーを開催致しました。来賓として、宮城県国際経済・交流課長の三坂達也氏、仙台市国際経済・観光部長の嶺岸浩友氏、そしてセミナーの講師を務める香港貿易発展局日本首席代表の古田茂美氏にご出席頂き、76名(委任状出席を含む)の出席を得て行われました。小野寺会長挨拶のあと、すぐに議事に入り、大坪代表理事の議事進行により、第1号議案「2013年度の事業報告(案)並びに収支決算(案)及び会計監査について」、第2号議案「2014年度事業計画(案)及び収支予算(案)について」の2議案について満場一致で可決・承認されました。

続く記念セミナーにおいては、共催団体である特定非営利法人宮城国際ビジネス交流支援ネットの事務局長の挨拶のあと、古田茂美氏による「香港活用による宮城対外経済拡大へ」と題した講演がありました。古田氏は言われました。「今や、香港では日本の家庭料理にとっても関心がある。観光などで日本に来て、日本人が楽しんでいる日本の郷土料理、家庭料理を味わい、日本料理ファンになって帰国している。日本米のおいしさにも興味を持ってきており、これから、益々日本食の需要も増えることでしょう」と。

終了後、隣の会場に場所を変えての懇親会では、久々に村井嘉浩宮城県知事が出席、大坪代表理事の挨拶のあとに登壇、香港との出会い、香港の素晴らしさ、そして一日も早い香港定期便化をめざし、空港の民営化に取り組んでいることなどの話がありました。仙台市の嶺岸国際経済・観光部長の市長挨拶代読のあと、みやぎおかみ会会長の磯田悠子さんの乾杯で幕を開け、懇談となりました。知事の出席もあって、知事に面会する人、一緒に



会場風景

写真を撮る人など途切れることなく続き、退席までの30分はあっという間に過ぎていきました。その後、アトラクションとして南条幾代さん等3名による素晴らしいフラダンスも披露され、参加した会員の皆様も楽しく懇談されておりました。

いよいよ2014年度の事業が始まります。知事の激励もありました。宮城の発展の一翼を担うべく、震災を発展のばねにして今年度の事業を展開して参ります。

## 平成25年度第3回香港文化教室を開催

3月19日(水)第3回目の香港文化教室「中国料理教室」を開催しました。会場は前回と同じく、中国餐厅「北京」にて、好評につき事務局を含めて26名の方々に参加いただきました。料理長の芳賀公彦氏から、コースメニューの「白身魚の烏龍茶クリームソース」の作り方を指導いただきました。烏龍茶葉を入れ、烏龍茶に調味料を加えて味付けをし、澱粉粉で餡をかけソースにするなど、日常ではなかなか作ったことの無い料理で、参加者からは「どんな烏龍茶でもできるのかしら?」などの質問もありました。

また、各テーブルの方々も仲良くなり、自己紹介するなどして、先月の春節パーティーに初参加された方々の感想も聞くことができ、「いろいろな会に参加しているが、この女性部会は企画がいつも楽しいのでまた参加したいわ」などのご意見もいただきました。



参加者も喜んでいます



村井知事と小野寺会長、古田代表

# OKINAWA

沖縄日本香港協会



沖縄日本香港協会 事務局

## 沖縄の企業の香港でのビジネス展開

沖縄日本香港協会では、会員企業である2社の香港でのビジネス展開をインタビューしましたので報告いたします。

### ◆オリオンビール(株)

沖縄で県民に愛飲される新鮮なビールを生産しているオリオンビール社は、2002年、香港を中心にアジアで琉球料理・日本料理店を展開するENグループの協力で香港においての缶ビール・瓶ビールの販売を始めました。

2005年には日本食材・飲料を多く取り扱っている海昌隆有限公司と提携、シティスーパーなどの高級スーパーに並ぶようになり売上が増加しました。しかしながら当初は沖縄から神戸経由で出荷していたことから輸送コストがネックとなっていました。その後販売量の増加に伴い沖縄から直接香港に輸出するルートを確認、2009年には、沖縄県が支援する海外人材育成支援事業を利用し、担当社員を香港に派遣すると共に、オリオンビール(株)、沖縄県物産公社、海昌隆の連携で香港でのビール販売事業を展開してきました。

香港での販売量は4年前には21キロリットルでしたが、昨年は244キロリットルと10倍以上の伸びを見せており、今後も販売量は増加すると見込んでいます。

オリオンビール(株)の香港への輸出量は、台湾(624キロリットル)アメリカ(316キロリットル)に次ぐ第3位の輸出先となっています。

日本のビール(キリン、アサヒ、サッポロなど)はすでに中国やアジア地域で製造されており香港でも定着していますが、オリオンビールとしては、「日本製のビール」として展開していきたいとのことです。

今後は、海外の地域ごとに担当者を配置し、ベトナム、フィリピン、韓国、オーストラリア、ニュージ

ランドなどアジア・オセアニア地域に展開をしていくとのこと。

沖縄の「地元のビール」からアジアのビールになることが期待されます。

### ◆(有)丸市ミート

(有)丸市ミートは昭和10年創業の沖縄では老舗の食肉卸販売会社ですが、県の海外事業展開の支援を受けて2007年より香港に豚肉(沖縄県産豚及びアグー)の輸出を開始しました。

沖縄では歴史的に中華圏の影響を受け、豚肉が多く食されていますが、香港も豚肉の消費量が多く、かつ高付加価値の豚肉を購入していただける富裕層が多くいることが、香港のマーケットの大きな魅力となっています。

現在、ANA(全日本空輸(株))が沖縄・那覇空港において貨物ハブ事業を展開していますが、丸市ミートでは、香港の輸出にこの航空貨物を利用しており、通常一か月程度かかる期間が航空貨物の利用により一週間程度で顧客に届いており、大変好評を得ているとのことです。

航空輸送運賃は沖縄県より助成を受けていますが、輸出手数料やハンドリングチャージを含めた輸送コストは、やはり船便より割高であり今後の課題となっています。

沖縄の固有の豚であるアグーの肉の特徴は、脂身のおいしさにあります。香港では「脂身を削ってくれ」とのリクエストが多く当初苦慮しましたが、スーパーなどで実演・試食販売を多く行うことにより、アグーも受け入れられるようになり、販売量も増えてきています。

沖縄の食肉輸出会社が協力し沖縄県食肉輸出促進協議会を設立、協議会では香港に保冷倉庫を確保しており、今後、沖縄の食肉が更に香港で広がることが期待されています。



パシフィックプレイスで販売されるオリオンビール



アグーの試食販売





COLLAGE

## MODERN *fine* DINING



### ダイナミックな景観と愉しむコンテンポラリーなお料理

選りすぐりの食材と洗練されたシェフ独自のプレゼンテーション  
フレンチとヨーロッパスタイルが見事に調和したダイニング  
ミシュランで星を獲得しているシェフ・ド・キュイジーヌ前田慎也の  
革新的なアプローチをご堪能ください

### Contemporary cuisine with sweeping city views

Experience Michelin-starred Chef de Cuisine Shinya Maeda's innovative approach to dining with the very best of French and European culinary styles, ingredients and unique presentation.



CONRAD  
TOKYO

*the luxury of being yourself*

conradtokyo.co.jp/collage  
tokyoinfo@conradhotels.com

ご予約 / Reservations: 03-6388-8745